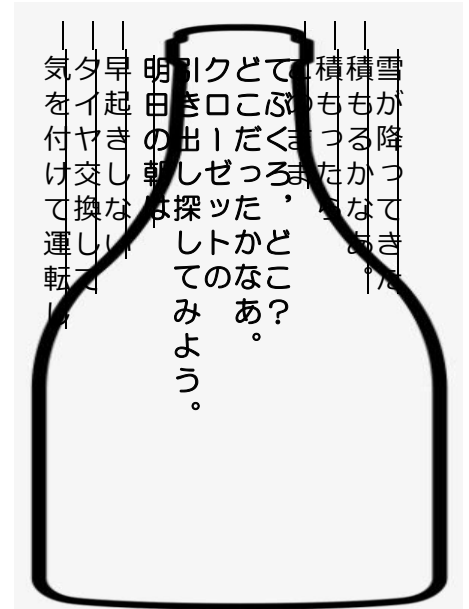
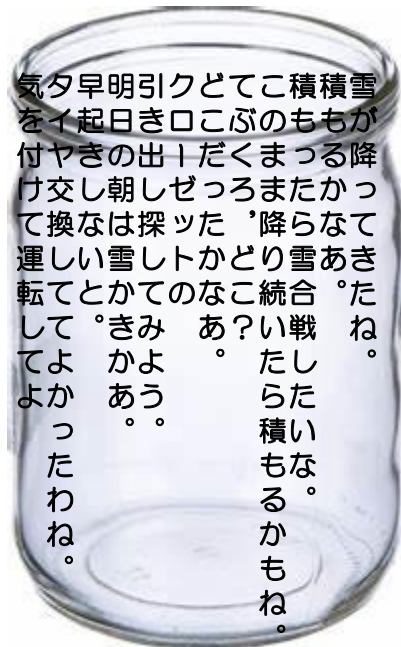


今回のテーマは【言葉のシャワー】



どれだけ言葉(情報)が入るかを、瓶で例えることがあります。聞こえる子は口の広い瓶、難聴の子は口の狭い瓶と言われます。

下の絵の場面で、子どもがどんな言葉のシャワーを浴びているか考えてみます。



口の広い瓶はシャワーの水(情報)がたくさん入りやすく、口の狭い瓶は広い瓶に比べとても入りにくいことが想像できます。では、どうしたら情報をたくさん入れられるか考えてみましょう。

- ① よりたくさん水を浴びせる。 ② 伝わる方法で浴びせる。

口が狭いので、よりたくさん話しかけるとよいでしょう。いろいろなものを見たり、触ったり、食べたり、においを嗅いだり、いろいろな音を聞いたり、という経験をたくさんさせましょう。

言葉のシャワーは、言葉数だけではありません。口調から、雪を喜んでいるのか、雪が嬉しくないのかという情報も伝わります。

難聴の子にどうやって伝えるか。それは、雪が降っているその時に、目と目を合わせ、雪が降ると嬉しいか嬉しくないかを伝えます。また、今はまだ雪が積もっていない地面が朝には白くなることは、絵を描いて見せたり、写真や動画を見せたりして伝えることができるでしょう。

一つの言葉の奥には50~60の言葉があると言われます。「ゆき」という言葉を使ったとき、その言葉の奥のたくさんの言葉を使ってやりとりができるよう、目と目を合わせて感情を共有したり、感じ方の違いやその理由を伝え合ったり、このあとどうなるかを一緒に想像したりしてみましょう。お子さんに合わせた方法で、言葉を豊かに育てたいですね。